

チャイナ



レポート

第6回のコラムで、中国人富裕層が投資の対象として、中国国外の不動産（海外不動産）を視野に入れていることを報告しました。今回は、この背景について述べたいと思います。

改革開放以降、中国は「世界の工場」として、世界が求めるモノを製造してきました。輸出産業における価格競争力を維持するため、人民元安に誘導し続けてきました。人民元売りドル買いを続け、世界一の外貨準備を保有するまでに成長したのです。

しかし、不胎化政策が積極的に行われたわけではありません。結果、市中に人民元が大量に供給されることになり、これが不動産市場や株式市場に資金が流入し、国内の資産価値を急速に上昇させました。富裕層が増えた原因は、中

第16回 海外に進出するチャイナマネーが生まれる背景

国の対外的な価格競争力の維持による成長路線と、その副産物といえる資産バブルといえます。

不動産市場では、数回のマクロ調整を経たものの、概して資産価値が上昇しました。上海では、00年代の間に住宅価格が3倍から4倍に膨れ上がりました。大都市中心部の高級住宅の価格は、先進国を凌駕するまでになりました。気

え、急速に豊かになった結果、海外の規模が大きことから、地元経済への悪影響も無視できない状況です。現在、中国は、引き締め政策下に置かれており、海外投資に向かう勢いは増していくと思われ

引き締め政策の反動は海外投資に向かう

輸出産業における価格競争力維持のための人民元安

つげば国外の不動産のほうが安くはじめてます。「不動産は保有するなっていたのです。とくに、リーマン・ショックや欧州債券危機などの発生により、中国国内から見るときの割安感中国人富裕層にとっては魅力的です。

次に、海外との交流が民間レベルで拡大したことがあげられ、輸出産業の発展により、海外の取引が多くなったことに加

日本でも、個人、企業問わず、海外投資に注目するようになりました。「チャイナマネー」が海外に出ていく背景を考えると、決して無視できない存在であることがわかります。今後、日本人および日本企業は、海外で中国勢の勢いを目的にするようになるでしょう。

(毎月第4週掲載)

安田明宏 氏

ステイシアキャピタルジャパン株式会社
ゼネラル・マネジャー
名古屋大学大学院文学研究科博士課程
単位取得満期退学

2006年、ステイシア・キャピタル・ホールディング入社。約5年半の上
海勤務を経て、2012年1月より現
職

URL <http://www.staticcapital.com>